
悪魔の契約

中野達也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔の契約

【Nコード】

N7029F

【作者名】

中野達也

【あらすじ】

目の前にいきなり現れた悪魔が持ちかけた契約とは？

四畳半の寂れたアパート

「あーデスノート欲しいなあ」

持っていた漫画を閉じて彼は呟いた。

殺したい奴ならたくさんいる。ム力つく上司に生意気な後輩。高校の時俺をイジメた不良達。それに・・・

彼は考えるのを辞めた。

「バカバカしい。悪魔なんているわけないか・・・」

そう呟いた彼の前に背広姿の男が立っていた。

「な、なんだお前！どこから入ったんだ！」

背広姿の男は顔色を変えず答えた

「悪魔です。」

「へっ！??？」

彼は目を白黒させ言葉にならない声をあげた。

悪魔と名乗る男は表情を変えないまま言った

「消したい人がいるんでしょう？ただし条件があります。」

「まず血の繋がった人は消せません。消せるのは3日に1人だけです。そして報酬として1人消す度にあなたの寿命を一年間頂きます。いかがですか？」

何とも言えない迫力に彼はただ無言で頷いた。

「じゃあ決まりですね。消したい人はこのノートに書いて下さい。それではまた」

悪魔は音もなく姿を消した

数分経っただろうか。

彼は冷静さを取り戻し悪魔が置いていったノートに手を伸ばした。

JISマークの入った普通のノートだ。

「これがデスノート？いや、JISノートか」

試しに彼は嫌味な上司Tの名前を書いてみた。

2日経ち

3日経ち

1ヶ月経ち

Tは死ぬどころか風邪さえひきそうにない。

「こりゃ騙されたかな・・・」

そんな事を考えながら半年が過ぎたある日

彼は交差点で信号無視のトラックに跳ねられた。

全身に走る痛みと薄れて行く意識の中で彼は考えていた

「そついう事か・・・」

悪魔は確かに存在したようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7029f/>

悪魔の契約

2010年10月10日11時35分発行